

関東明教 第14号 目次

母校沿革	4	S 27 / 東京ふたな会	山脇希一郎	42
同窓会関東支部沿革	5	S 28 / 東京二八会	辻田 功	43
校歌	6	S 29 / S29年卒関東同期会報告	宮内 英聿	44
巻頭言		S 30 / 喜寿のお祝いを兼ねて!	堀端由美子	45
若い世代の拡大を	8	S 31 / 由比宿・西伊豆土肥温泉の旅	大西 千恵	46
俳句の聖都 松山	9	S 32 / 関東三二会報告	船引 孝昭	47
威風堂々! 質の高い文武両道の実践	10	S 33 / 東京支部参賛会報告	高見澤宏子	48
宮岡 博(校長) S 48		S 36 / 古希を迎えた同期会(36会)	清水 勉	49
会則	12	S 37 / 三七会同期会報告	金澤 満穂	50
総会・懇親会報告		S 39 / 道後・にぎたつ会館に90名・箕面観光ホテルに21名が集う	前田千恵子	51
フォトアルバム	13	S 40 / 松山東高40年卒同期会報告	齋藤龍二郎	52
総会・懇親会報告	17	S 41 / 昭和40年の本館落成記念ソノシート発見	河村 浩	53
収支報告	19	S 42 / 美食・歴史・旧交 盛りだくさんの昭和42年卒関東地区同期会	高橋 圭子	54
講演会要旨 『坂の上の雲』と松山	20	S 43 / 43期 同期会報告	上田 博文	55
坂の上の雲ミュージアム館長 松原 正毅氏		S 44 / 獅子の会	大濱 雅幸	56
平成24年度 総会・懇親会出席者	22	S 45 / 昭和45年卒業関東支部の2012年同期会	篠崎真理子	57
寄付者一覧	23	S 46 / 松山より愛をこめて	田淵 廣美	58
会費納入者一覧	24	S 49 / 関東MISOZII会	上田 謙二	59
役員名簿/物故者	28	S 50 / 締めには「がんばっていきましょい!」	中矢 一也	60
平成25年度 総会・懇親会のご案内	29	S 52 / 浴衣姿で「がんばっていきましょい!」	緒方 郁夫	61
特別寄稿		S 53 / スカイツリーを望んで	安齋 倫明	62
追悼・故宇野秀幸さんのアドバイス	30	S 55 / 「卒業後三十年、新たな繋がり(絆)」	竹田 紳二	63
篠原 一郎 S 59		S 57 / 3年経ちどんどん広がる同期の輪	政所 逸美	64
関東明教特集		S 58 / 年男&年女が30年ぶりに銀座に集合	吉金 圭亮	65
俳句甲子園優勝への軌跡	32			
明教・関東明教編集部	32			
同期会報告				
S 20 / 昭和20年五三期同期会報告	40			
大塚 力				
S 26 / 第二十三回関東はつたの会総会の実施報告	41			
齋藤 剛				

S 59 / 「59年卒、集う！ 集う！」 大喜多妙子…66

H 4 / 関東地区での同期会、やりましょう！ 吉田 治彦…67

H 5 / フェイスブックで広がった同級生の輪 尾上 由野…68

H 7 / 卒業二十周年に向けて 藤村 慎也…69

H 12 / 東高生よ、大志を抱け！ 坂本 健…70

H 16 / おいしい豚とワインで絆を楽しんだゴールデン・ウィーク 石田 明…71

H 17 / 明日仕事に行けない!! 村上 和正…72

番外編 / テイレギとクレソン 伊賀 篤志 S 30…73

同期会掲示板…74

事務局だより 河崎 定信 S 45…77

部活巡り 渡部 晴行 S 31…78

バレーボール部 塩出 武志 H 11…80

池内 萌 H 15…81

前田千恵子 S 39

懐かしき中学校を訪ねて

城東…82

御幸…84

懐かしき中学校を取材して…86

第5回東高サロン 大森 俊祐 H 24…87

海外勤務便り

ハイチ派遣国際救援隊の活動について 菅野 隆 S 59…88

番外編 ロンドン五輪取材記 荻山 恭平 H 5…90

投稿

東高一期生の誕生と松中二三五会 倉本 肇 S 25…92

オーストリアに寄せて 藤井 晴雄 S 25…94

定年後の暮らし 篠浦 弘 S 35…96

研究生生活 石田 明 H 16…98

学生の今だからできることを 中岡 千瑛 H 23…100

同窓生お店探訪…102

ニュース&トピックス…105

ブックス…108

母校便り 田村 信悟 S 60…110

支部便り 仲矢 順子 S 63…112

近畿 渡辺 俊雄 S 49…114

東海 名刺広告…115

企業広告…129

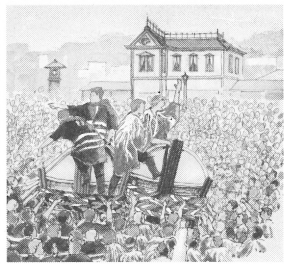
卒年索引…???

編集後記…???

■題字 柴田祐昭 S 31

■題字 柴田祐昭 S 31

なお、本文中の時刻の表示、筆者ならびに登場人物の赴任地や肩書や役職などの人事情報などは、すべて事象が起きたときあるいは執筆時のときのものになっています。筆者のそのときの気持ちを尊重してのものですから、発刊時とは違っていることがあります。したがって編集部として「今年」を「去年」に手直ししたり、「元」や「当時」などの表記も付記したりはいたしません。ご了承ください。



表紙 小椋勇記夫 (S32)

半世紀ほど昔、松山は戦後の荒廃から立ち直りつつあり、歴史の中で秋祭りは市民にとって待ちに待った一大イベントであった。現在のように娯楽は多種多様、一年中楽しい事がある中で、しかし祭りは別格、男達も女性達もウキウキとして燃え上がる。特に御輿のケンカ。聞いただけで興奮する。普通の人達が豹変し粋でイナセになってくる。何時の時代も同じである。これは北小唐人と大唐人の道後駅前の鉢合せである。現在は美しく秩序よく行なわれている。それでもみんな燃えている。

(小椋勇記夫 記)